



歳時記

令和8年
1月～5月

一月

- 1日 木・祝 歳旦祭
- 3日 土 元始祭
- 10日 土 玉換祭
- 28日 水 不動神社初不動祭
(孝養ロウソク神事) 【奥の宮】
- 31日 土 ▼ 2月3日 火 節分祭福豆まき神事



玉換祭

不動神社初不動祭

二月

- 1月31日 土 ▼ 2月3日 火 節分祭福豆まき神事
- 1日 日 稲荷神社初午大祭(招福だんご祭) 【奥の宮】
- 11日 水・祝 紀元祭・護摩焚大祈禱祭
- 17日 火 祈年祭
- 19日 木 ▼ 28日 土 夕陽のまつり
- 23日 月・祝 天長祭
- 28日 土 不動神社春季大祭
(ぜんざい祭) 【奥の宮】



稲荷神社初午大祭 /



節分祭福豆まき神事

三月

- 3日 火 流し雛神事



流し雛神事

四月

- 4日 土 ▼ 6日 月 春季大祭
※開催未定 花爛漫春まつり



五月

- 3日 日・祝 薬師神社大祭
(薬草祭) 【奥の宮】
- 23日 土 ▼ 6月中旬 菖蒲まつり
- 31日 日 江戸菖蒲初刈り神事



薬師神社大祭

編集後記

初の女性総理大臣の誕生もさることながら、昨今にないその支持率は、多くの人々が日本の復活を期待していることの表れなのでしょう。本年は午年、皆様が素晴らしい年へと飛び跳ねて欲しいものです。社報115号をお届けいたします。

新春のごあいさつ

宮司 浄見 譲

新年明けましておめでとうございます。

令和八年もご皇室のご繁栄並びに皆皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

当社、現社殿は昭和六年に完成し、ご遷座されました。

旧社から二〇〇メートル東側、崇敬者の増加により手狭との事にて移築・遷座されました。

建築には十年程の歳月を要し、台湾檜を海上輸送し宮地嶽浜に陸揚げの後、この地で製材されましたし、徳島の御影石を同じく海上移送の上、この地で石工の方々が石段や石畳みに加工されました。重機が無く諸器具も整って無い時代ですから、大変な時間と労力を要したのだらうと憶測いたします。

大正時代から昭和の初頭にかけて、多くの神社が建立されましたが、当社が建立された昭和初期、九州北部は石炭の日本一供給地として大変栄えていました。そんな時代に建立されたお社だけに、佇まいや規模は大変立派です。

そして、令和十二年が移築から百年を迎え、ご遷座記念大祭を斎行し、併せ諸事業を完工致します。

祖の方々が残された素晴らしいご神域を一層と蘇らせ、次の世代に継がなければなりません。その為の諸事業をご奉仕させて頂きます。

百年前とは明かに違う気候や環境そして社会、人心の変異、それらを基にご参拝者のニーズを鑑みながら事業を進めたく存じています。

皆様方の今一層のご崇敬をお待ちいたしております。

第六回 ● 宮地嶽巨石古墳

宮地嶽巨石遺跡と

国宝瑠璃壺

国 宝瑠璃壺は特に秀作です。瑠璃壺は総高11センチ、蓋高2・4センチ、径6・8センチ、身高9・4センチ、口径5・7センチ、胴径13・6センチ、底径6・3センチのガラス製の壺で五、六世紀の物であろうと推察され最古級の国宝です。

制作の作業工程は今と同じ吹いて膨らませられています。

瑠璃壺は三重の容器に収められており、一番外側はガラス製被蓋造りの壺でおおむね真珠色ではあるが、一部には風化した部分が剥離して緑色を呈しているところ

ろがあり蓋には球形のつまみがつけられています。

その中に青銅の壺があり、鋳銅製の鉢形の壺でつまみはなく蓋表の周縁とそのやや内側に二条の紐飾りを鋳表して無文の器体であり橙色の顔料が塗られています。

さらに青銅の壺の中に鉢形土器が入っており、大小二口分の鉢があり外側は赤褐色で内面は灰白色、小粒の石を交えています。

この時代より、吹いて調製する製法が発達しており、瑠璃壺は宮地嶽神社出土の稀有な遺品です。



大注連縄奉製の工程



長さも重さも日本一の物ですから、運ぶだけでも大変です。氏子崇敬者、神社職員など約250人の力を一つに合わせて、大きな掛け声とともに巨大な二本の綱を拝殿前で撚り合わせていきます。



注連縄が出来上がると、いよいよ拝殿に取り付けです。3トンもの重さの注連縄を拝殿に取り付けます。



無事に取り付けたら、後は固定。ワイヤーや綱を使って十分な安全確保を行います。固定が済んだら完成です。大注連縄の完成後は奉納祭を斉行し、新しい注連縄で新年のご参拝者をお迎え致します。

4

撚り合わせ



しめ縄の材料となっている藁。これは「古代田（いにしえでん）」と呼ばれる、約2反の御神田で育てた古代米の稲を使用します。10月に行われる抜穂祭に於いて、大神様に感謝の気持ちをお伝えし御神田から稲を収穫します。

1

抜穂祭

2

奉製作業
(てっぽう・こも)



採れた藁を手作業にて回収。その藁を一握りにまとめた「てっぽう」を奉製していきます。纏めた藁が鉄砲の形に似ている事から「てっぽう」と呼ばれています。次に奉製したてっぽうをつなぎ合わせ様々な長さの「薦（こも）」を奉製していきます。

3

奉製作業
(編み込み)



「薦」を大注連縄の芯に1枚ずつ巻き付け丁寧に編み込んでいきます。その工程を繰り返し二本の大きな綱を奉製します。その時に、参拝の皆様方から納められた願掛け用紙を綱の中に納めていきます。

日本一の大注連縄が完成するまで、田植えから稲の育成、収穫、藁の回収、編み込みまで
実に約8か月間の時間と延べ約1500人の方々による御奉仕です。
大注連縄の奉製に携わる、一人ひとりの努力と想いを込め納めます。

大注連縄が でききるまで

おおしめなわ

直径2・6m、長さ11m、重さ3トン。
宮地嶽神社の注連縄は日本一です。
その大きさを一目見ようと、
参拝される方も多くいらつしやいます。
当社の日本一の大注連縄は、
次の様に奉製されています。



キティ千支 ぬいぐるみ守

午年姿のハローキティが
宮地嶽神社の
お守りを抱きしめて、
皆様と新年を迎えます。



福運び

錦彩招福午

福を招く縁起物と
一緒に新しい年を
お迎えください。



七福神



瓢箪
持ち

御神矢

今年の干支の
午の絵を記した、
卓上型の魔除けの
御神矢です。



赤

白

紺

夢矢

あなたの夢が叶います。
神棚や居間、床の間、
玄関などにお飾りください。



赤

紺



だるま

願いを託して目を入れるだるまは、どんな願いでも
かなえてくれる縁起物として親しまれています。

第7回

モマ だより

令和八年

授与品 縁起物

令和八年
新しいお守り
が登場！



干支絵馬

午年を記念した
絵馬です。

首振り開運 干支張り子

うんうん、と首を振って
願きながら皆様のご繁栄を
見守り開運に導きます。



青



ピンク

黄

白

プチ 干支土鈴

ころんとした
フォルムが可愛い、
手のひらサイズの
午年の土鈴です。

御朱印帳

宮地嶽神社
オリジナルの
御朱印帳です。



特大
サイズ！



オンライン
授与所はこちら



5号



6号

熊手

幸運や金運を
かき集める縁起物です。

3号

崇敬者
ピックアップ



藤本電業株式会社
藤本 憲良様

私は広島県大竹市で電気工事業を営んでい
ます。
昭和四十七年に自営業を始め、翌年の正月
から宮地嶽神社に初詣を始めました。
始めたきっかけは、自営業を始める前に勤め
ていた会社の社長様や、生まれ育った地元の
会社や自営業の方々が、毎年正月に初詣に行
かれていますのを見ていたので、私も行ってみよ
うと思いお参りをしたのがきっかけでした。
以来五十三年間、毎年お参りをさせていた
だいております。
特に宮地嶽神社は商売繁盛、又、何事にも
打ち勝つ開運の神様として知られていると
知り、より一層の信仰が深まり、十四年前か
らは、朔日参りも欠かさずお参りするよう
になりました。
お陰様で、会社の設立から一度も大きな事
故に見舞われることもなく、事業も順調に
進んでいるのは、社員の皆さんの頑張り、と、
深い信仰の賜物と心から感謝しております。
これからも、宮地嶽三柱大神様の御加護を
頂きながら、大過なく充実した人生を送り
たいと思っています。

連日の猛暑の中でも、奥の宮には涼やかな風
鈴の音色が響いています。色とりどりの5000個
の風鈴が夏風にそよぎ、訪れる人達にひとときの
安らぎを与えます。夜にはライト
アップされ、澄ん
だ風鈴の音色
と柔らかな光が
幻想的な空間
を創り出します。



地域の秋の実りの様子を、大神様が御神
輿に乗って巡視される御神幸祭。古式ゆか
しい装束をまとった華やかな行列が、浜から
神社までの道を練り歩きます。御神幸祭の
二日目の夜は毎年恒例の花火大会です。
皆様の願い事が大神様の元に届くように、
想いを込めて花火を打ち
上げます。

風凜
まつり

菖蒲
まつり

光の道
宮地嶽神社の

足跡

ソクセキ

令和7年

御神幸祭と
花火大会

七夕
まつり

宮地嶽神社の境内を、毎年艶やかに彩ってく
れる江戸菖蒲。株分、植付け等当社で育成を
行っております。また、期間中はフォトコンテスト
も開催し多くの方が
ご参拝されます。



奈良時代に宮中行事として伝わり、その後、江
戸時代に五節句の一つに定められたことで庶
民の間にも広まりました。現代では、願い事を書
く短冊を笹に飾る行事として、各家庭や学校な
どで受け継がれています。宮地嶽神社ではこの
時期、皆様の願いが大神様の元へ届きますよ
うにと楼門、境内を装飾しております。